

## 平成 28 年度建設施工の地球温暖化対策検討分科会 議事概要

1. 日時：平成 28 年 8 月 2 日 14:15～15:15
2. 場所：中央合同庁舎 3 号館 4 階総合政策局局議室
3. 議事概要  
事務局より資料に基づき説明があり、了承された。

### 【委員からの主な意見（作業燃費に関する意見）】

- 燃費基準値のクラス分けにおいて、最大吊り荷重で整理を行ったことについては、購入者に分かり易く設定するという観点から理解できる。
- 燃費試験方法については、補巻を使っての測定だが、実際の使用状況に近い形態であり、妥当である。
- アイドリングストップについて、現在はそのような機械が存在しないために重み係数には反映されていないが、技術開発がされれば燃費引き下げに極めて有効であると思う。
- 省エネの取り組みについて、アイドリングストップのように運転手の簡易な操作により省エネ運転となるような機能を開発する流れをつくっていきたい。また、運転手には省エネ運転を実際に励行していただきたい。将来的には、そのようなメーカーや運転手の取り組みを認定基準に反映させるべきである。
- アイドリングの時間が 6 割と大きく占めることを鑑みると、メーカーに本分科会として是非アイドリングストップ機能の開発促進を要請したい。
- 対象機械について、「ホイールクレーン」が正式名称であったとしても、オールテレーンクレーンのように類似の機械が対象機械に含まれるか否か、関係者が判断に迷わないように、定義を明確にし、明示すべきである。ホイールクレーンの認定開始について、購入者に広く周知を徹底することを要望する。

【委員からの主な意見（制度の全体を通じた意見）】

- 今回の重み係数を決定するために用いたデータは IOT の進展のなかで収集されたものである。他の認定済みの対象機械についても IOT を活用した稼働データの収集に努め、今後の認定基準の改定の際に活用すべきである。
- ブルドーザーなどのこれまで認定対象とした機械について、CO2 削減の現状等を本制度の成果としてとりまとめ、公表した方がよい。
- 建設機械について、JCMAS 燃費試験方法の国際標準化を目指すなど、世界をリードする取り組みが行われているが、このような状況も当分科会で報告してほしい。